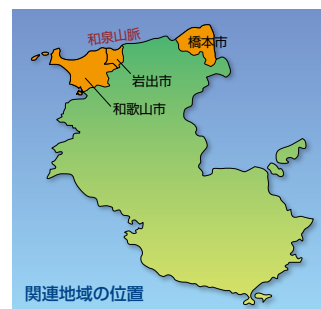


## 第3章 わかやまの自然と生活

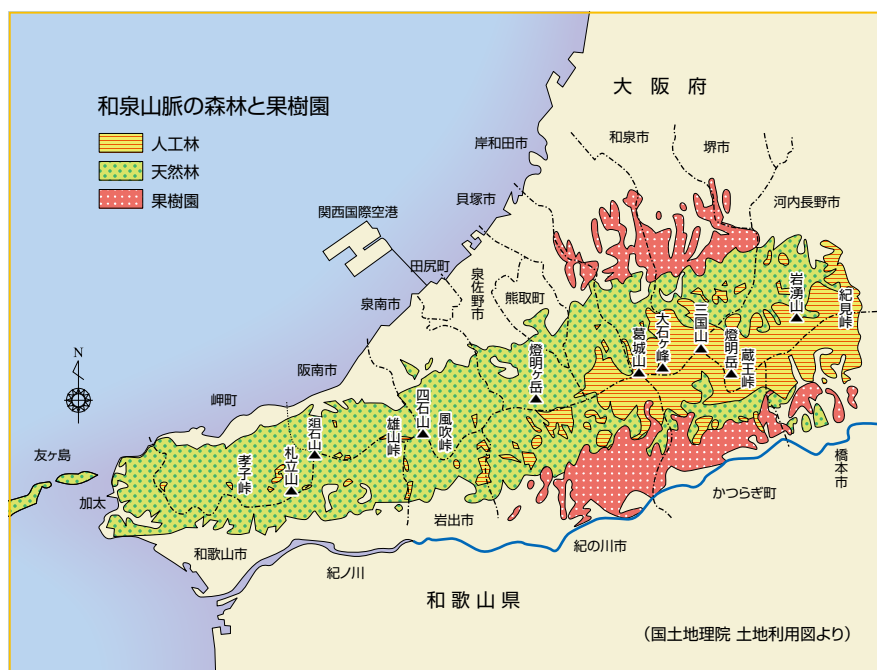


## 和泉山脈の自然と都市の開発



## 多い人工林と私有林

和泉山脈は、大阪府と和歌山県の境になっていて、和泉葛城山脈とか葛城山脈ともよばれています。東の岩湧山（897m、大阪府）から主峰の和泉葛城山（858m）をへて、山並みは西にむかって低くなり紀淡海峡までつづきます。東西の長さは約60kmの山脈で、岩湧山から東へは大阪府と奈良県をへだてる金剛山地・生駒山地へと連なっています。



和泉山脈の森林は、地形的に西から東のほうに行くほど森林面積が広く、紀の川市から伊都・橋本地方にかけてスギ・ヒノキなどの人工林の割合が高くなっています。

森林面積のほとんどが民有林となっています。そのうち、個人や会社などの所有する私有林の割合は、和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町、橋本市の各市町村ともおよそ90%を占めています。残りの公有林は、県や市町村がもつ山林のほか、

昔、村の入会地であったところが財産区有林として紀の川市や橋本市などに残されています。国有林の面積はほんのわずかで、和歌山市の瀬戸内海国立公園などの一部や、岩出市の風吹峠、紀の川市のごく一部に見られるにすぎません。

## 和泉山ろくの開発

最近、和泉山ろくの一部は開発がすすんで景色が変わってきています。

その丘陵地帯の開発は、1955（昭和30）年ごろからの高度経済成長期に、和歌山市や橋本市で



雄山峠を通る阪和自動車道

\* 1 国のもっている林野（国有林）以外のすべての林野で公有林、私有林をさす。  
\* 2 山ろくの村の人々が共同で利用する山野。昔はまぐさや肥料にする雑草・薪などをとった。

ゴルフ場がつくられたのが始まりです。1965年ごろからは、J R阪和線の六十谷駅の北方に建設された鳴滝団地や岩出市紀泉台など、各地に住宅団地がつくられるようになりました。1975年になると、橋本市の北部の台地に城山台・三石台などの大規模な住宅地ができ、大阪府への通勤者が増えて、橋本市は衛星都市としてのはたらきを強めました。1985年ごろからは、和歌山大学の移転や近畿大学の新キャンパスの建設のほか、関西国際空港の埋立ての土砂が和歌山市の加太からとられたり、大型の開発がすすみました。さらに、平成期に入ってから、橋本市の小峰台・あやの台や、和歌山大学近くのふじと台などの宅地開発や、山脈に沿う高台には京奈和自動車道の建設がすすめられています。

## 自然の保護と保全

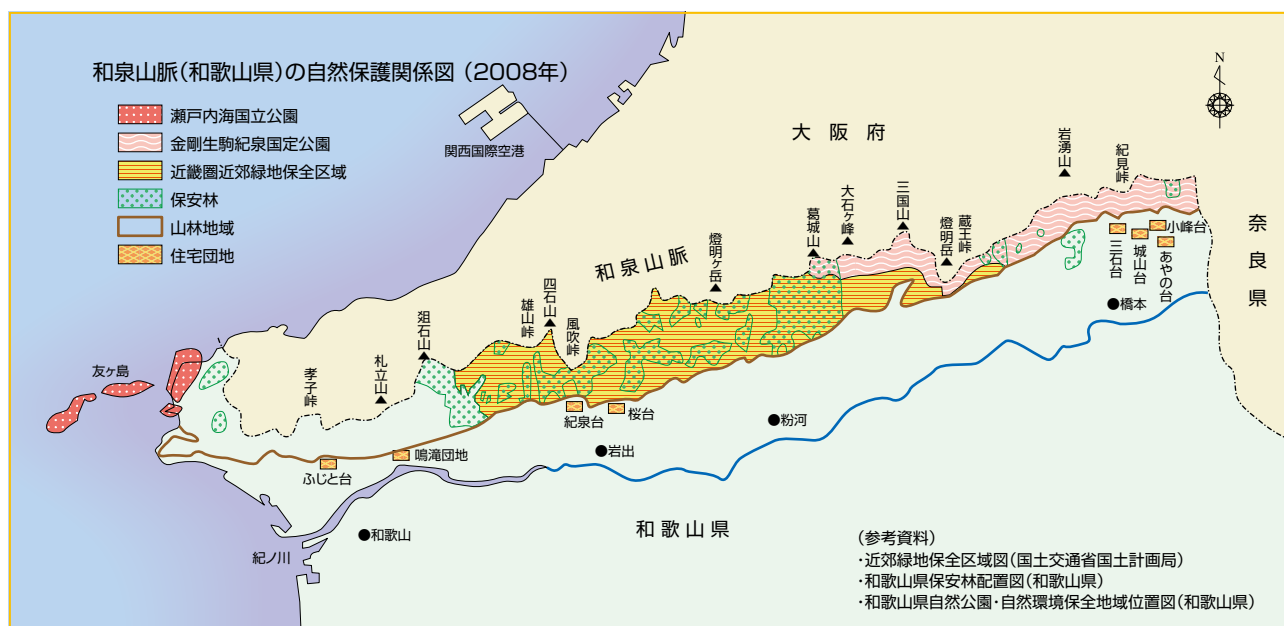
和泉山脈には、孝子峠（106m、和歌山市）、雄山峠（181m、和歌山市）、風吹峠（216m、岩出市）、蔵王峠（553m、かつらぎ町）、紀見峠（380m、橋本市）などの峠道があり、昔から人と物の交流が盛んでした。これらの峠は、トンネルや高架橋によって、鉄道や自動車道となり、峠道は大きく変わりました。

一方、開発するだけでなく、山林の保全はきわめて大切です。和泉山脈の山頂に広がるブナの原生林は国の天然記念物に指定されていますが、自然環境の保護のために瀬戸内海国立公園・金剛生駒紀泉国定公園・近畿圏近郊緑地保全区域などの指定もみられます。



ハイランドパーク粉河

2001（平成13）年に成立した森林・林業基本法では、木材生産だけでなく水源や土壌の保全、地球温暖化の防止、住民の保健休養など森林のもつ役割を明らかにしています。和泉山脈でも、ところどころで、水源かん養保安林・土砂流出防備保安林・保健保安林などの標示板をみることができます。また、山頂の展望台や、その西につづく紀の川市の「ハイランドパーク粉河」の展望台（748m）の付近は、住民の憩いの場となっています。そして、岩出市の県立森林公園「根来山げんきの森」（250m）は、木と人が共生する森林レクリエーション施設として知られています。



\* 1 大阪市のような大きな都市を惑星（地球）とすると、和歌山市や橋本市はそのまわりにある衛星（月）にあたり、大阪との関係が深い。  
\* 2 人の手の加わっていない自然のままの森林。